

第 2 学 年 音 楽 科 学 習 指 導 案

2 年 1 組 指 導 者 川 原 真 矢

題 材 いろいろな音を楽しもう

1 題材について

本学級の子どもたちは、第1学年のころから鑑賞の学習を中心に、曲想と音楽の構造などのかかわりを意識しながら音楽活動を行ってきた。このような子どもたちが、曲想と音楽の構造や曲想と歌詞の表す情景や気持ちとのかかわりに目を向け音楽表現を工夫していく。このことは、仲間とともに音楽表現を工夫する楽しさを感じることや、音楽に対する感性を働かせ豊かな表現をめざすことにつながるであろう。

本題材は、打楽器の音色を感じ取りながら音楽を聴いたり、曲想と音楽の構造などのかかわりを考えたりする活動をとおして、音楽表現を工夫し、どのように表現するかについて思いをもつことをねらいとしている。鑑賞活動では、いろいろな打楽器の音色を聴き取り、そのよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、曲全体を味わって聴く。そして、そこで気付いた打楽器の音色を生かしながら、音楽づくりに取り組む。器楽表現では、かぼちやのイメージに合うように、楽器の組み合わせや音の重なりなどを工夫して演奏していくであろう。このような学習経験を積んだ子どもたちは、歌唱表現においても、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつことができると考える。その際、子どもたちが音楽的な見方・考え方を働かせることを大切にしていきたい。なぜなら、このような学習を積み重ねることで、音楽に対する感性が一層育まれていくからである。

そこで、以下のような支援を具体化する。

- 鑑賞と表現とを関連させた題材構成を仕組む。そうすることで、それぞれの活動で得た知識や技能を生かしながら、音楽表現を工夫することができるようにする。
- 感じ取ったことや表現の工夫などについて話し合う際は、理由を問うたり実際の音で確認したりする。そうすることで、音を根拠にししながら考えや思いを共有することができるようにする。
- 子どもたちの発言を、自己のイメージや感情と音楽を形づくっている要素に整理し、問い返しや板書によってそれらを関連付けていく。そうすることで、音楽表現を工夫し、どのように表現するかについて思いをもつことができるようにする。

2 目 標

- 曲全体を味わって聴いたり、音色や曲想と音楽の構造などのかかわりに気付いたりする中で、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように表現するかについて思いをもつことができるようにする。
- 鑑賞や表現のそれぞれの活動で得た知識や技能を生かしながら音楽表現を工夫し、仲間とともに演奏したり歌ったりする楽しさを感じるようにする。

3 評価規準

知識・技能(知・技)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
○音色や曲想と音楽の構造などのかかわりに気付いている。 ○音色や歌声に気を付けて演奏したり歌ったりしている。	○曲や演奏の楽しさを見出し、曲全体を味わって聴いている。 ○曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように表現するかについて思いをもっている。	○仲間と共に演奏したり歌ったりする楽しさを感じている。 ○身の回りの様々な音楽に親しんでいる。

4 指導計画 (全9時間)

第1次 「だがつきパーティー」を鑑賞する (1時間)

第2次 身近な打楽器を使った音楽づくりをする (2時間)

第3次 曲想を感じ取って表現を工夫する (6時間)【本時 5 / 6】

